

# 夢 塾 だ よ り

## ～ 若大将からの啓示 ～

(第 58 号) 令和 4 年 5 月 23 日



その昔「若大将」シリーズで一世を風靡した俳優で歌手の加山雄三さん。作曲家としての名前は弾厚作。「君といつまでも」「海その愛」など、数多くの名曲を世に出しました。慶応大学法学部政治学科の卒業後に、芸能界入りをしました。スキーはプロ並み、ピアノの弾き語りは力強く甘い。エレキギターリストであり、海の男、そして画家としての顔も持つ多彩な才能の持ち主。万能の天才です。現在 85 歳です。その加山さんの若い頃の著書の中に、こう書いてありました。

『私は自分の子供に高校数学を教えることのできる父親でありたい』

あの加山さんが高校数学をこどもに・・・・・・  
ハッとしました。

私が高校時代に最も苦手だった数学、逃げ出したかった数学の授業、なんにも解らずに、ただ苦痛に耐えるだけの時間を 3 年間過ごしました。

そんな私ですが、高校生に数学を教えることで生計を立ててきました。定年退職後の今も数学を通して子供たちの成長にかかわっています。

人間はわからないものです。人生もわからないものです。ただ、わかることといえば、人間というものは、自分が苦手なものの前では謙虚だということです。私は今でも数学が苦手ですから数学の問題を、毎朝欠かさず解きます。悩み苦しみます。かすかな希望をみいだしてはまた、落胆します。なかなか思い通りにいかない数学と日々格闘しています。

私にとって数学はどこまでいっても、これでいいという完成形を見ることのない永遠の平行線（平行線）かもしれません。だから数学の前では常に謙虚です。そんな生き方がしみついたせいか、60 歳を過ぎたあたりから人格的にも謙虚になった気がします。(笑)

数学から教えられたこと。それは『謙虚』さを持ち続けなさいということ。そうすれば長く付き合えて、いい関係性を保てるということでしょうか。

『ライムライト』や『モダンタイムス』など多くの素晴らしい映画を世に残したチャップリンは「あなたの最高傑作は？」の問いに必ずこう答えました。

「次回作です」 私もそんなふうになりたい。